

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091500029		
法人名	有限会社メディカルサービス有田		
事業所名(ユニット名)	グループホームゆりのき苑やまち		
所在地	和歌山県有田市山地44		
自己評価作成日	平成23年3月14日	評価結果市町村受理日	平成23年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokohyo-wakayama.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=3091500029&amp;SCD=320">http://www.kaiyokohyo-wakayama.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=3091500029&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成23年4月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開苑し4年が経過、利用者同士の信頼関係が構築され和気あいあいと生活を送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

独自の理念の実践に向け、基本的に1日のスケジュールを決めてしまわず利用者の自己決定に任せている。思い思いにのびのびと生活する事を通して、利用者間の信頼関係はもとより、職員との信頼関係も確かなものとなっている。全ての利用者が自室にひきこもる事なく日中はホールで談笑する光景が何よりの証である。又玄関は夜間を除き全面的に開放されており、利用者や地域の方々が自由に入出入りしている。目的として掲げる地域に根ざした介護サービス提供への取り組みの、まさに原点といえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を掲げ“自由・尊厳・歓び”のある生活、本人が本人らしく生活が出来るよう職員全体で共有している。また、管理者及び職員は理念の実現に向け日々取り組んでいる。	利用者の自主性を尊重するという独自の理念をホールに掲げ、管理者・職員に共有されている。自由に生活していただけるよう、基本的にスケジュールは決めていない。利用者の思いを確認しながら、理念の更なる実現を目指し、管理者・職員は日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区自治会に入り地域活動に積極的に参加し、また近くの住民が苑の防災訓練に参加してくれたり、行事等を通し地元の人々と交流している。	ホームとして自治会に入会し、溝掃除等の活動に積極的に参加している。秋祭り等の行事では山車がホームにも寄ってくれており、利用者の楽しみの一つである。又近隣の住民がホームに立寄る事も多く、地元の人々との交流が盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議にて当苑の理念を伝え理解が得られるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、民生委員、地区長、家族代表等に参加してもらいサービスの取り組み状況の報告及び話し合いの場にし、会議での意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、民生委員・地区長・行政職員・家族代表の参加を得ている。会議ではサービスの現況や外部評価への取り組み等について報告し、話し合っている。災害対策へのアドバイスも得られ、出された意見をサービス向上に活かしている。	地域に根ざした介護サービスの提供を目指し、地元の人々との交流がなされているが、地域とのつながりをより一層拡げ深める為にも、運営推進会議の開催頻度や内容の双方向性が高まる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは苑及び各利用者の状況を報告し助言を受けたりし情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者や包括センターからの空き状況の問い合わせや運営推進会議出席の際に、ホームの現況やサービスへの取り組みを伝え助言を受けている。日頃から連絡を密に取り、情報交換を行う事により、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外研修に参加し、管理者及び職員は身体拘束についての知識を持ち利用者への対応に注意を払い防止に努めている。	外部及び内部(2月に1回)の研修を通して、管理者・職員は身体拘束となる具体的な行為を正しく理解している。6:00から19:00の間は玄関は施錠せず出入り自由とする為扉も開放している。又、言葉による拘束についても十分に注意を払い防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外研修に参加し、管理者及び職員は虐待についての知識を持ち利用者への対応に注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当苑利用者に地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を利用しており管理者及び職員は制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者より十分な説明をすることにより利用者や家族の理解及び納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会や面会時、意見及び要望を言いやすい雰囲気作りに努め、運営に反映していくように努めている。	地域の利用者がほとんどであり家族等の来訪の頻度は高い。その為家族等の来訪時に利用者・家族等から意見・要望を聞き、それらを運営に反映させるよう努めている。又より意見・要望を出しやすくする為の工夫の一つとして意見箱の設置を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回会議を開催し、職員からの意見や提案を聞く機会を設け反映している。	2月に1回管理者・職員で会議を開き、意見や提案を聞く機会を設けている。又それ以外にも随時管理者に意見や提案を報告する事ができ、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業時間について現場職員の意見を管理者が聞き、円滑に業務が遂行出来るよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外研修を随時開催し参加、サービスが向上出来るよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との情報交換等随時行っており、サービスの向上が図れるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前からの本人及び家族の意向・要望を把握し、入所後においても本人が不安なく生活ができるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安事、要望等を聞く機会をつくり傾聴し把握、受け止めていく努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人と家族の意向及び要望を把握し必要としている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の得意分野を把握し日常生活において活躍ができる場を設けていくよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族との時間を作り家族の意向の把握に努め共に本人を支えていく関係を築けるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで通っていた美容院や歯医者等継続し利用してもらえるよう努めている。	通い慣れた美容院や歯科医院等は継続して利用している。馴染みの喫茶店や、自宅の様子見・墓参り等にも出掛けている。地域の利用者がほとんどである為、基本的にホームの職員が送迎の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自然に関わり支えあえるような関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退苑した家族が以前訪ねてくれたこともあり関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの毎日の表情や言動を観察し、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。	SOAP方式を利用して、日頃の利用者の言動から思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めている。本人の経歴や家族等の話しも参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートより把握し、毎日の様子や言動を観察し情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント・モニタリング・毎日のケース記録等活用し、一人ひとりの暮らしの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望、意向を尊重し、情報収集・アセスメントを行い、ニーズを明確にする。また、解決すべきニーズに向け意見をまとめ介護計画を作成する。期間に応じモニタリングを行い状態変化時は見直しを行っている。	介護計画は、本人・家族・職員が話し合い、あくまでも本人の希望・意向を基本としつつ、家族や主治医等の意見も取り入れて作成している。モニタリングを通して定期的見直しを行うと共に、利用者の状態に応じて随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SOUP式の書式を活用、本人の言動を記録しその言葉よりどのようなことが考えられるか随時アセスメントをし実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同事業者のデイサービスにはいつでも参加が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや職場体験学習の受け入れを積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者とかかりつけ医との信頼関係が築けるよう配慮し適切な医療を受けられるよう支援している。	入所時に本人・家族と話し合い決めているが、現在は提携している医師が利用者全員のかかりつけ医となっている。2週間に1回の往診の他、随時の利用者の状態に応じた電話相談や直接の受診を通して信頼関係の構築に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同事業所デイサービス看護師に利用者の健康管理の相談を行い助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、医療機関医師に相談等、連絡を密に行い早期退院に向け連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化や方針について随時話し合いの場を設け、本人・家族の希望を優先し医師と連携を図り安心して終末期を迎えられるよう取り組んでいる。	入所時に事業所の取り組みを説明し、意向を確認している。状態の変化に応じて本人・家族・医師等と話し合いを行い、重度化や終末期に向けた方針を共有するとともに、関係者との連携を密に図りながら、チームでの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応及び連絡体制を掲示している。また、マニュアルを作成、事故発生時に備えている。職員全員が救急救命の受講をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年より、水害時の訓練を行っている。避難訓練実施時、避難経路及び消火器の位置等の確認を行っている。	年2～3回の避難訓練を実施し、必ず消防署員の立ち合いを得て、助言・指導を受けている。今年から水害等の訓練も加えている。訓練時は近隣の方々の参加があり地域との協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のこれまでの生活歴を把握し、なじみのある方言を使用しつつ、一人ひとりの人格を尊重し自尊心を損なわないよう対応している。	言葉かけの際には氏名で呼ぶのを原則としているが本人の希望により名まえで呼ぶ事もある。又会話には自然と地域の方言を用いる事が多いが、誇りやプライバシーを損ねないよう留意している。個人情報保護については、事業所として万全の対策を講じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表出しやすい雰囲気作りを心がけ自己決定が出来る場を提供するよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールに決まりを作らず、利用者のペースを大切に希望に添うよう支援している。しかし、外出の訴えに対し即対応が出来ない場合もある。外出したい理由も同時に探り、支援に活かすようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの美容室を利用、本人らしく身だしなみやおしゃれ出来るよう支援している。また、季節に合った服装を本人の好みを取り入れながら助言している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの献立を取り入れ楽しい雰囲気の中で食事が出来る。食器拭き等声掛けし一緒に行っている。決まった利用者が行ってくれ役割化が出来ている。活躍出来る場を提供出来るよう支援を行っている。	利用者の好みの献立を取り入れ、買い出しに一緒に出掛けている。味見・盛付け・食器拭き等に役割分担がなされ利用者が活躍している。それぞれの利用者が味付け等の評価を行いながらの楽しい雰囲気での食事である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の少ない利用者に対し水分摂取表を活用し補給に努めている。食事は表に明記し、普通食が困難な利用者に対しきざみ、ミキサーにて対応、一人ひとりに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの習慣のない利用者に対し食後のお茶の飲用の声掛けを行っている。自力にて口腔ケアを行える利用者に対し声掛けを行い、自力困難者は口腔ケアの介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて一人ひとりの排泄リズムをつかみトイレ誘導を行い、排泄の失敗を防げるよう支援している。	排泄をチェックする事により誘導表を作成しており、確実にトイレ誘導を実施し、排泄の失敗を防いでいる。オムツを使用している利用者についても現状を固定化する事なく上記誘導表を活用して積極的にオムツ外しに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある利用者に対し医師の指示の下、服薬により調整はしているものの、服薬だけに頼らず冷たい牛乳を提供したり、ホットパックや腹部マッサージを個々に応じ支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴時は個別(回数、時間、温度、湯量)にて対応でき、会話も弾み楽しい時間にて過ごしてもらうことが出来ている。	入浴の回数や時間等に制限は設けていない。本人の希望に応じていつでも入浴できる体制をとっている。気の向かない利用者には時間をずらして声掛けをしている。入浴は気分がくつろぎ会話も弾む楽しい時間であり、利用者と職員との信頼関係を築く絶好の機会となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり、共有スペースにおいて落ち着く場所があり、自由に休息をとってもらうよう支援している。また、安眠できるよう、日中の活動、会話等を行い、生活リズムを整えるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況、副作用についてファイル化し、理解している。日ごろから一人ひとりの状態を把握しており、状態変化等見逃さぬよう対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を把握し活躍が出来る場を提供するよう努めている。張り合いや喜びのある生活が送れるよう対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域事業には家族や地域の方に協力してもらいながら支援している。一人ひとりの希望に添って外出の支援を行うよう努めているが、限定した時間になってしまう為、日を改め希望に添うようにしている。	地域の行事(秋祭り・溝掃除等)には家族や地域の方々の協力を得て参加している。美容院や喫茶店等に出掛ける際にも送迎は職員が行うが、その場での対応は店の人に任せられている。日中開放されている玄関から出ようとする利用者には職員が同伴して、本人の希望する場所に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に合わせた金銭管理がされており、希望に応じてお金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話依頼があった場合もしくは電話にてやりとりが必要と思われる場合には利用者本人が会話できるよう支援している。家族には前もって協力依頼をし、了解を得ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快のないよう臭いに注意し、日差しの調整をカーテンを使用している。季節感を取り入れ居心地よく生活が出来るよう支援している。	共用の空間の温度調節や換気が十分になされ、カーテンを用いて日差しを和らげる等快適さが保たれている。ホールに部分的に敷かれた畳の効果も加わってか利用者は自然とホールに集まってくつろいでいる。又廊下に飾られたスタンドグラスを模したパッチワークは利用者が自室を判別する格好の目印となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーを設け一人ひとり落ち着ける場所が自然と決まっており、思い思いに過ごすことが出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある物品を自由に持ち込めるようにし本人と相談しながら居室内の環境作りを行っている。また、家族の写真を飾る等、家族との繋がりを大切にしている。	本人・家族と相談しながら馴染みの物を傍らに置いておく等の、本人が落ち着いて過ごせる工夫がなされている。又利用者のADLに応じたベッドが各居室に配置されており、その人らしく居心地のよい居室づくりに大きな役割を果たしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー様式を取り入れ一人ひとりの力を把握し、事故発生要因を排除し、見守り、一部介助により自立できるよう支援している。		